



プロジェクトメンバー募集中!

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（通称：JKB）では、一人ひとりが、地域活動での体験や日々の暮らしの中での気づきや疑問を大切に活動しています。私たちの活動は、女性の視点からライフスタイルに合わせた自助力を高める防災、日常生活に取り入れやすいことを基本にしています。



活動内容の紹介

防災についての身近な情報発信!

他地域との視察交流会や開催した講座を防災ニュースレターとしてまとめて発信しています。災害時のトイレ事情と対策編冊子も手作りしました。



講座の企画と運営

「トイレ」「集合住宅」「避難所運営」など災害時にこれだけは知っておきたい事情と対策等について講座を企画し、1 から運営を手掛けています。



区や自主防災組織への防災イベント・出前講座

日常の暮らしの中で、生活者としての知見を活かしてできることを積み重ね、わかりやすい防災、誰もが取り掛かりやすい防災をテーマに実施しています。



● 定例会議について

活動日：月1回・第3土曜日午後 to 定例会議
場所：すくらむ21
対象：市内在住の女性

● 申込方法

お名前、住所、連絡先(メールアドレス、電話番号)を記入の上、専用の申込用紙をメール添付、もしくはFAXでお申し込みください。

https://www.scrum21.or.jp/disaster_prevention/gender/

すくらむ21 防災

検索

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト

製作：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（通称：JKB） 発行：川崎市男女共同参画センター（通称：すくらむ21）

『親子でつくるmy減災マップづくり』から学ぶ

「女性の視点から考える」防災・減災講座

私たち「女性の視点でつくる防災プロジェクト」は2017年度は2回講座を企画しました。その一つ目が7月29日に講師は減災アトリエ主催鈴木光さんをお迎えした「減災マップづくり」でした。区内の防災訓練や町内会での前講座をする機会がありますが、参加する方々の年齢層に偏りがあり、もっと若い方々に「防災・減災」について考えてもらおうきっかけとなればと思います。減災マップづくりは一言でいうと、自分の住んでいる場所（家やその周辺）を「鳥の目」となって見てみよう！ということとです。自分の住んでいる場所で災害が起こった時にどうなるかをイメージすることが備えの一つとなることを実感できた講座でした。例えば、近くに川が流れている、



もし大きな水害で川が氾濫した場合、どの方向に避難することが安全なのかを実際の地図を見ながら「想像」しました。そして、自分が住んでいる場所の周りの地形について案内知らないことが多いことがわかりました。また、改めて災害時に何を備えることが必要かを実感できた講座でした。

参加者の感想

- ★ 家族で話し合っって避難場所を決めようと思った。
- ★ 家の周辺にある小学校の位置を改めて確認しようと思った。



親子で備える災害対策

インターンシップ研修生が8月23日防災フェアと8月27日川崎市総合防災訓練に参加し、親子で備える災害対策について考えてみました。

まずは子ども(5~12歳)が備えておくことよい防災リュックについてです。子どもリュックに入れておくことよいものは以下のものになります。

- ・携帯電話充電多機能ライト
- ・5年保存水(500ml×2本)
- ・食料(ゼリーやレトルト食品など子どもが好きな食べられるもの)
- ・アルミブランケット
- ・アルコール除菌ジェル
- ・笛(自分の居場所を知らせる時に使う)
- ・カイロ
- ・三角巾
- ・マスク
- ・救急セット(おやすみ手帳など)
- ・緊急時連絡シート



次に大人が備えておくことよい防災リュックについてです。大人用リュックに入れておくことよいものは以下のものになります。

- ・多機能ライト
- ・非常用ローソク
- ・水のいらないシャンプー
- ・5年保存水(500ml×4本)
- ・笛
- ・食料(ゼリーやレトルト食品など食べやすい長期間保存できるもの)
- ・レジャーシート
- ・食品加熱袋
- ・軍手
- ・加熱剤
- ・乾電池
- ・救急セット(お薬手帳や持病の治療薬など)
- ・スリッパ
- ・緊急時連絡シート(家族との集合場所や最寄り避難場所など)
- ・非常用給水袋
- ・身体拭きとりシート
- ・スマートフォン充電機付ライト

親子で考ええる防災クイズ ~いくつかわかるかな？

防災フェアのイベント出展に向けて、学生が考えたクイズです。

問1 凝固剤1袋で水を何杯吸収できますでしょうか？(1袋は10gとし、コップ1杯を150ccとします)

- A. 6杯(900cc)
- B. 3.5杯(525cc)
- C. 4.5杯(675cc)

問2 非常時に備えた飲料水(大人1人分)の備蓄量の目安(3日分)はどれくらいでしょうか？(ペットボトルは2ℓとする)

- A. 3本(6ℓ)
- B. 1.5本(3ℓ)
- C. 4.5本(9ℓ)

問3 夜になり、寒さが厳しくなってきました。避難所で寒さを和らげられるもので最も適しているものはどれでしょうか？

- A. 新聞紙
- B. 抱き枕
- C. レインコート

問4 防災の日は何月何日でしょうか？

- A. 8月30日
- B. 9月1日
- C. 9月5日

問1(答) : Aの6杯で凝固剤10gに対し900ccの水を吸収します。

問2(答) : Cの4.5本で大人1日必要な飲料水は3ℓ必要といわれているので3日で9ℓの水が必要になります。

問3(答) : Aの新聞紙です。新聞紙は衣服の中に入れることで保温効果があるため寒さを和らげるのに適しています。

問4(答) : Bで1923年(大正12年)9月1日に起こった関東大震災の日が防災の日として定められています。

~8月23日防災フェアと8月27日川崎市総合防災訓練に参加してみよう~

防災に関して私たちの考え方がまだまだ甘いことが分かりました。段ボールでつくる簡易トイレや災害時に必要なリュックの中身など普段の生活の中ではあまり意識していないがいざという時に必要なものを用意できていなかった学生もいました。

今回の防災フェアと川崎市総合防災訓練に参加したおかげで自宅に帰ってからもう一度防災リュックの中身や避難場所の確認ま

た避難レポートの確認をしてみました。リュックの中身の乾パンや水の消費期限が切れているものもあったので一年に一回は防災リュックの中身の確認も必要だということが認識できました。今回の活動の経験からに生かしていきたいと改めて思いました。

— インターンシップ研修生の感想